



渡利村の道路元標

正面に《渡利村道路元標》と刻まれており、渡利学習センター前に建てられている。近年、渡利から岡部へ向かう道の改修工事で土の中から発見され、地元の人々が地域文化遺産として再建した。

近代日本の歩みが始まった明治六年、政府は全国掌握のため**里程標**の設置を全国市町村に通達しました。東京・日本橋に起点元標、府県庁所在地に里程元標、市町村に里程標を建てるものです。各主要地への距離を刻みましたが、木製のため風雪で消滅へ。

そこで大正八年、政府は全市町村に**道路元標**の建立を指示、三年計画で列島全域に実現をみました。「高さ六十センチの石の角柱」「市町村名と道路元標の文字を刻む」形式。しかし時代と共に市町村合併で地名が変化し、道路改修で元標が消えたりして陰の存在へ。

現在の福島市には、実は三十五の市町村が存在しましたが、今回、全市の道路元標を調べてみました。多くの元標を確認しましたが、もはや存在しない村名もあり、歴史の変転を感じさせてくれるものとなりました。

かつての福島の町や村の歴史を偲ぶ 明治の里程標 大正の道路元標



福島市の道路元標

福島市の県庁前通り（昔の福島城の大手門通り）の札の辻（高札場一お知らせ板）があった場所に建てられている。旧粉又商店前といえわかりやすいかもしれない。正面に《道路元標》と刻まれている。

道路元標が確認できない村

人口は大正9年現在 説明は道路元標があったと思われる場所



吉井田村 2,271人
旧役場付近の道路



水原村 1,618人
水原小付近の風景



水保村 2,251人
貴船神社の西側



土湯村 876人
郵便局のある通り



飯野村 3,626人
中心街の十字路



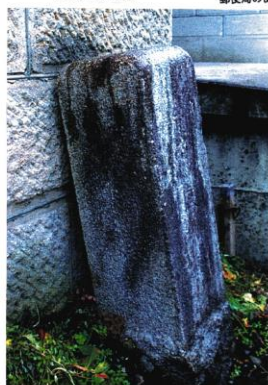
立子山村 2,265人
旧役場付近の風景



平野村 3,042人
旧役場付近の風景



青木村
大正9年人口 1,846人
広敷地区に順を出し残存



中野村
大正9年人口 1,973人
中野不動の塚場バス停前



渡利村
大正9年人口 3,805人
道路工事で発見し再建



鎌田村
大正9年人口 2,512人
消防団会館の前の路傍



荒井の目増橋（右）と向田橋（左）から福島の里程元標への距離が刻まれている。



余目村
大正9年人口 3,015人
余目小門フェンス内



杉妻村
大正9年人口 2,071人
瀬川橋南の旧4号国道



瀬上町
大正9年人口 2,578人
事故で壊れ基部だけ残る



岡山村
大正9年人口 3,815人
文字掘バス停のY字路

佐倉村と荒井村の道路元標

佐倉村の道路元標とされるのは、佐倉町南側の二六の石柱。二つに折れていますが、今春二つを繋ぎ合わせて再建しました。実は各主要地への距離が刻まれ、明治の里程標の様子が窺えます。元標とは関心ではありませんが、建立が大正十一年であり、いわゆる「みなし道路元標」として認定されたもののようです。佐倉町の南側の道路元標は確認されませんでした。しかし目増橋、向田橋の碑には各主要地への距離が刻まれています。明治の里程標の様子が窺われ、しかも建立が大正十一年であることが、これもまた佐倉町の歴史を物語る重要な証拠といえます。また福島市市民園の正南側に荒井村から主要地への距離を刻んだ碑が移動されています。